

マリンレジャー安全レポート



第七管区海上保安本部
マリンレジャー安全推進室
Tel 093-321-2931(担当：橋本)
E-mail:kyuunan7-j7vj2@kaiho.mlit.go.jp

第78号 平成24年3月

左の写真はヘリコプターから降下訓練実施中の福岡航空基地機動救難士です。事案にいつでも対応できるように各種訓練に励んでいます。

バックナンバーはこちら

http://www.kaiho.mlit.go.jp/07kanku/gyoumu/kyunan/marine_anken_report/



平成24年マリンレジャー事故発生状況					
船舶事故隻数			海浜事故者数		
海難種類	2月	累計	レジャー種類	2月	累計
衝突	2	2	釣り中		3
機関故障		3	2月のマリンレジャーに伴う海浜事故の発生はありませんでした。		
乗揚げ		1			
運航阻害	2	3			
安全阻害		2			



事件事例 Aさん(男性79歳)は、船外機付きのボートに1人で乗船し、魚釣りに出かけましたが、夕方になっても帰らず、家族が心配して海保に118番通報しました。捜索の結果、夜間に船は無人で発見されましたが、Aさんは2日後、遺体となって発見されるという悲しい結果となってしまいました。なお、船は、船外機がチルトアップ(海面上に跳ね上げる)され、錨が垂れ下がった状態だったので、揚錨作業中の事故であったと推定されるのですが、Aさんの転落原因については、はっきりしたことは判明していません。

教訓 Aさんは、ライフジャケットを着け、携帯電話も持って出かけており、家族からも118番通報があったことから、日頃から当庁



無人で発見された船

が推進する3つのポイントをほぼ守って釣りを楽しまれていたものと思います。それなのに今回は残念な結果になってしまいました。同じような事故を繰り返さないために次のことについても励行願います。

海で命を守る 3つのポイント

- ライフジャケットの常時着用
- 連絡手段の確保
防水携帯電話の携行!
- 海のもしもは「118番」

JCG 海上保安庁第七管区海上保安本部



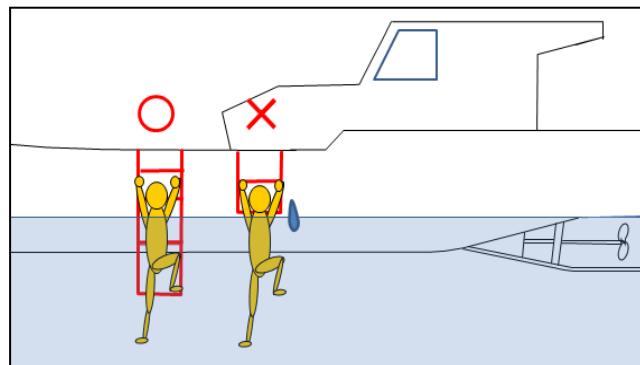
携帯電話は水没を防ぐための工夫を! 携帯電話の電源が入っていて電波の届く場所であれば、たとえ所有

者が電話に出なくても、おおよその位置を調べることができます。今回の場合は、携帯電話が水没してしまったため、事故者の位置を検索することもできず、搜索海域が広範囲となっていました。マリレジャーで使用する携帯電話は防水型にするか、防水パックに入れるなどして、海中転落時にも使用が可能な状態にしておきましょう。

複数人での行動 1人でいくら注意をしても洋上では何が起こるか分かりません。2人以上いればなんでもないような出来事も、1人では何もできずに大事に至ることがあります。特に高齢の方や持病のある方は1人で出かけずに複数での活動を心がけて下さい。

舷側に落水したときのための梯子はしこを設置

落水して服が重たくなった状態で船に上がるのは思った以上に困難なものです。船の舷側に常に梯子を据え付けておけば、誤って海中転落した場合も簡単に船に戻ることができます。今回は最終ページに「自船復帰補助ロープ」(手作り縄梯子)の作り方を紹介しています。大事なポイントは、梯子の一番下の段を海面下の足が掛けやすいところまでの長さしておくことです。



うっかりが招いた事例

(以下に紹介する事例は、大事故には至らなかったヒヤリハットです。)

《プレジャーボート等》

- ◎揚錨時に、機関を使って根がかりした錨を外そうとしたところ、急に船が旋回しバランスを崩して海中転落した。
- ◎船からいかだに乗り移ったが、もやいがひとりでに解け、船が漂流して帰れなくなかった。
- ◎エンジンを止め電動リールを使って釣りをしていたところ、バッテリーが上がって機関が起動できなくなりました。
- ◎エンジンルームをきれいにしようと、スプレー式の洗浄剤を吹き付けたが、換気をしないままエンジンを起動したところ、エンジンルームが爆発した。
- ◎水上オートバイで浮き輪を引いて遊んでいたところ、ロープを吸い込み航行不能となった。

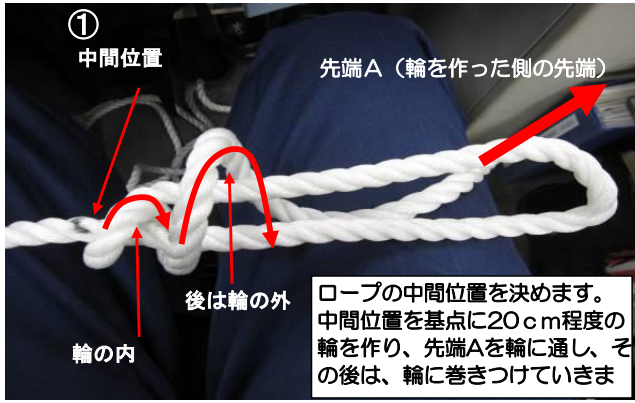


《磯遊び・釣り》

- ◎高齢者が、しゃがんで貝を探っていたが、急に立ち上がったところ立ち眩みがして倒れた。
 - ◎ゴムボートで遊ぼうとボートを海面に出したところ、乗る前にボートだけが風潮流により沖に流されてしまった。そのままにしていたところ、海中転落事故と間違われ大騒ぎとなった。
 - ◎磯から手漕ぎゴムボートに乗ろうとしたが、先に係留索が解けて船が流出。腰まで海に入りようやく船を確保したが、オールが流出していたため帰れなくなった。
 - ◎海上が時化している時にこそよく釣れるということで、スズキを釣りに行ったが、風にあおられ転んで海中転落した。
 - ◎ライフジャケットを家に忘れたが、取りに帰るのが面倒で、そのまま釣りに行き、岩場で転んで海中転落した。
 - ◎干潮時に、岩を伝って陸岸から離れた岩場で釣りをしていたら、潮が満ちて帰れなくなった。
- ※ヒヤリハットとは、重大な災害や事故には至らないものの、直結してもおかしくない一歩手前の事例の発見をいいます。文字どおり、「突発的な事象やミスにヒヤリとしたり、ハッとしたりするもの」です。

「自船復帰補助ロープ」作成要領

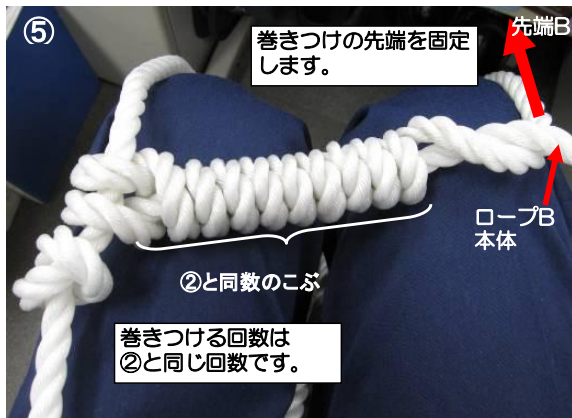
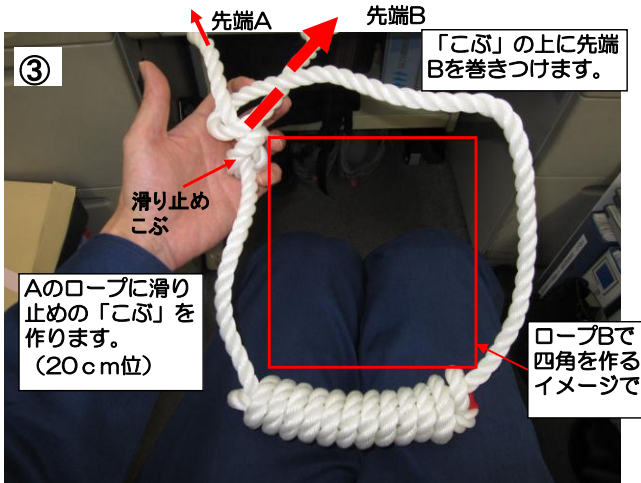
門司海上保安部航行安全課作成



ロープの中間位置を決めます。中間位置を基点に20cm程度の輪を作り、先端Aを輪に通し、その後は、輪に巻きつけていきます



10~12回巻きつけたら、先端Aを輪に通し、反対側の先端B引きます。きつく引っ張ると「こぶ」が綺麗に揃います。



巻きつける回数は②と同じ回数です。



3段目が必要なら③から⑦の繰り返しです。

